

レアメタルニュース

●アルム出版社

東京都文京区本郷1-8-18
☎(03)3814-1009・3811-4994
FAX(03)3818-4016
e-mail raremetals@nifty.com
購読料年間73,500円
(消費税3,500円)

№2503 2011年(平成23年) 10月1日 (毎月1, 8, 16, 24日発行)

・THE RARE METAL NEWS

(昭和35年8月3日 第三種郵便物認可)

レアメタル・ニュース №2503 2011年(平成23年)10月1日 第三種郵便物認可

10~12月の相場予測 Ni, Coは欧財政問題で弱含み

ニッケル相場は8月頃から、ヨーロッパ財政問題など世界経済の減速感を受け、他のベースメタルと同様に下落に転じた(ニッケルの相場予測は既報・9月16日号)。今年10~12月のニッケルとコバルト相場の見通しについてメタルドゥの山根敏彦氏(代表取締役・専務)、片山こころ氏(貿易部 貿易課長)にそれぞれ寄稿してもらった(コバルトの関連記事はP.4)。

Niは欧米の財政問題が一進一退し\$8.39~9.53/lbか

8月のニッケル相場(LME)は7月の上昇基調から、一転下落に転じた。アメリカ議会は8月1日に債務上限引き上げに合意し、デフォルトを回避。これを好感し11.38ドル/lb(2万5,080ドル/t)まで上昇した。しかしその後、ヨーロッパ債務問題でギリシャとなり、続いてアメリカ国債格下げ、世界の景気後退の懸念から投機筋の手仕舞い売りとなった。一か月で1.81ドル/lb(4,000ドル/t)ほど下落し、8月下旬には9.53ドル(2万1,000ドル/t)をきるところまで暴落した。9月に入り、2万1,000ドル/t台半ばで推移。だが、ギリシャがデフォルト不可避の状況に近づき、世界の株、石油、メタル価額が大暴落し、足元のニッケル相場も8.35ドル(1万8,400ドル/t)と下げた。

需給面ではヨーロッパやアメリカ、アジアのステンレスメーカーの生産状況は悪い。また、中国ではニッケル鉄鉱(NPI)が従来より生産増となっており、さらに品位を11%~14%までアップしている模様。最近では一部の大手メーカーのニッケル品位は25%と聞かれ、汎用度も高まっていると思われる。ニッケル水素電池(NiMH)はハイブリッ

ド車の増産で需要が堅調であるが、地金への顕著な影響は出ていない。ニッケル生産の最大手ノルリスクは、世界のニッケル在庫が微増に転じると発表しているが、現状9万7,000tまで減少。最近相場とLME在庫はリンクしないとも言われている。結局のところ、最近の相場は実需給や在庫量よりも世界経済の動向重視で、ETF(上場投資信託)などのファンドの影響力が大である。10月以降、ヨーロッパやアメリカの財政問題が一進一退し、それに相場がもみ合うと考える。10~12月のニッケル相場予測は8.39~9.53ドル/lb(1万8,500~2万1,000ドル/t)とみる。

Co低品位品は中国の酸化物の動きが悪く14.5~16.5/lbか
ギリシャのデフォルト問題からスタートし、ヨーロッパ債務問題が表面化する中、投資家はコモディティのリスク回避の流れが強まり、現金化の動きが強い。LMEのベースメタルの多くは20~30%下げに転じている一方で、コバルト相場の変動は少なく、6~7月に下げていたが、8月に入り上昇基調。この相場は、夏休みに入ったヨーロッパの買いが一時的に減少していた特殊要因で、予想通りの展開。

特殊鋼向け、スーパーアロイ向けの需要が変わらず好調。高品位品(High grade)の需要は長期契約で順調とみられ、年内はタイト感がある。長期需要は、スーパーアロイ市場が年率10%、電池市場が年率14%、GTL(gas to liquids)市場が年率47%成長すると予想され、楽観的といえる。このため、コンゴ民主共和国(DRC)は増産計画が相次ぐ。

しかし、短期では中国の酸化物の動きが悪く、低品位品(Low grade)が相場を下げに引っ張っているため、10~12月の低品位コバルト相場は14.50~16.50ドル/lb、高品位は16.00~17.50ドル/lbと予想。